

—研究の成果と課題—

読解力問題の正答率と意識調査の関連性

【成果】

○読解力向上に関して

各教科等において、読解力向上に着眼点をおいた授業を意識したことで、授業のねらいが明確になり、適切な学習課題を設定することができた。その結果、生徒自身も自ら目的意識をもって学習に取り組む姿勢が身に付き、全国学力学習状況調査において、「国語の勉強が好きですか」という問いに肯定的に回答した生徒が 59.9 pt、「国語の内容はよくわかりますか」という問いに肯定的に回答した生徒が 89.5 pt に達し、数学においても、「数学の勉強が好きですか」という問いに肯定的に回答した生徒が 76.5 pt、「数学の内容はよくわかりますか」という問いに肯定的に回答した生徒が 90.4 pt にまで達した。

また、国語・数学において、平成 31 年度と令和 4 年度の全体の正答率を比較すると、平成 31 年度より令和 4 年度の方が全国平均を大きく上回る正答率となった。〔%〕

	平成 31 年度 正答率		令和 4 年度 正答率	
	国語	数学	国語	数学
本校	80	67	78	63
埼玉県 (公立)	73	59	70	52
全国 (公立)	72.8	59.8	69.0	51.4
全国との差	+7.2 pt	+7.2 pt	+9 pt	+11.6 pt

観点別でみると、「知識・理解」において、埼玉県平均の結果と比較し、国語+8pt、数学+10pt、「思考・判断・表現」において、埼玉県平均の結果と比較し、国語+10pt、数学+11pt であった。

○ICT の活用に関して

3 年間の研究期間で、大学教授や教育委員会指導主事を招聘して教職員の ICT スキルの向上に努めた。教職員が効果的な協働学習ソフトの操作方法や Teams の操作方法などを身に付け、授業で実践を重ねることにより、教師と生徒の ICT スキルの向上が図られた。「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒は 96.5pt に達した。

- 授業で、コンピュータなどの ICT をどの程度使用しましたか 〔%〕

	ほぼ毎日	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満
平成 31 年度	15.9	15.9	22.8	45.4
令和 3 年度	0.7	62.7	31.3	5.3
令和 4 年度	87.8	10.5	1.7	0

- 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか 〔%〕

	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立たないと思う	役に立たないと思う
本校	65.2	31.3	3.5	0
埼玉県 (公立)	58.4	34.6	4.6	2.4
全国 (公立)	56.7	35.9	5.0	2.4

【課題】

○読解力向上に関して

本研究では、各教科別の読解力向上が中心となっているが、各教科等で身に付けたスキルを教科等横断的に活用させることが今後求められてくるであろう。そのため、教職員間で、他教科等の授業内容や授業の進め方などを研究するなど、読解力のさらなる向上に向け、教員間の授業スキルの向上が必要である。

○ICT の活用に関して

ICT 機器の操作を得意とする生徒の方が、読解力が高いという結果から、生徒の ICT スキルの差をなくしていく努力が必要である。また、読解力チャレンジ等、今後活用が求められる CBT (※ Computer Based Testing の略。コンピュータを利用した試験方法。) の操作にも慣れていく必要がある。